

(別紙5)

整理番号 2019P-114
補助事業名 2019年度 豊かな自然と動植物を大切にする活動 補助事業
補助事業者名 公益財団法人世界自然保護基金ジャパン

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

項番1 佐賀・熊本地域モデルの推進

日本の生物多様性上重要な役割を担って地域で水田・水路の生物多様性と農業の共生を進める地域モデルを構築する事業を進めるため、まずは農業者および流通・消費を担う関係者、次いで消費者に水田・水路の生物多様性の理解と行動を促すことを目的とする。

項番2 横浜地域モデルの推進

2021年3月までに横浜市が持続可能な街として国内トップレベルになっていることをめざす。実現にあたっての阻害要因など見極めながら、適宜修正していくが具体的な実施策は以下の2点である。ひとつは、科学的な知見と整合した削減目標を設定する温暖化対策の国際的なしくみへの参加企業数が増大していること、もうひとつは、環境に配慮した水産物の市場拡大につながる施策が導入されていること、である。

そのために地球1個分の暮らし教育プログラムを市内小中高等学校内で広げ、地域の協働者と環境イベント開催を実施することを通じて持続可能な社会を求める市民を増やすことを目的とする。

(2) 実施内容

項番1 佐賀・熊本地域モデルの推進

<https://www.wwf.or.jp/activities/activity/209.html>

本事業では、地域の子供・若者も含めた水田・水路の生きもの観察会を実施することで、世界にココにしかいない絶滅危惧種と触れ合える機会を設け、生物多様性の理解を促進し、生産の場と流通・消費の場での配慮を促した。

2019年度中に佐賀県・熊本県で生きもの観察会・勉強会を5回開催し、12月には、佐賀県及び都内で報告会を2回開催した。

※2020年6月に佐賀県で開催予定であった観察会・勉強会は、荒天のため当日朝に地域と相談して中止した。

※2020年3月に熊本県で開催予定であった報告会は、新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐため中止した。

(別紙5)



生きもの観察会の様子



絶滅危惧種アリアケスジシマドジョウ



勉強会の様子



クリアケースの魚を観察する参加者

<https://www.wwf.or.jp/activities/activity/209.html>

<https://www.wwf.or.jp/activities/activity/4059.html>

<https://www.wwf.or.jp/activities/eventreport/4169.html>

<https://www.wwf.or.jp/staffblog/diary/4208.html>

<https://www.wwf.or.jp/activities/lib/4309.html>

項番2 横浜地域モデルの推進

<https://www.wwf.or.jp/activities/basicinfo/3962.html>

① 地球1個分の暮らし教育プログラムの推進

横浜市内教員向けのESD講座を2019年6月に行い、さらに市内の小学校9校で授業を9回行った。2020年1月には、横浜市立東高校へWWF香港から専門家を招き、環境問題に関する講演会を開催した。さらに、市内小中高校1校ずつが、香港の学校と環境に関するメッセージ交換をして、国際交流を経験した。また、同10月には横浜市資源循環局職員40名を対象に海洋プラスチック問題に関する講座を開催した。



教員向け ESD 講座の様子

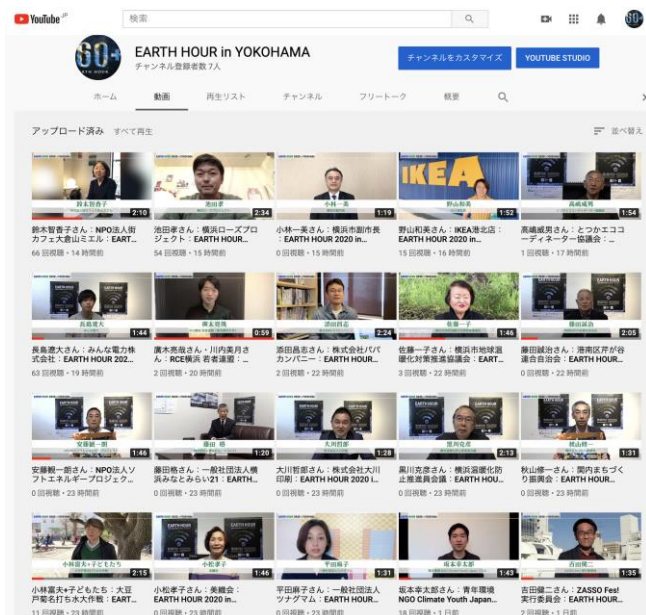
高校での講演会の様子

<https://www.wwf.or.jp/staffblog/activity/4009.html>

<https://www.wwf.or.jp/staffblog/activity/4229.html>

② 環境イベント「アースアワー」の開催

2020年3月28日のアースアワーは、新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐため、会場を設営するイベントは行わなかったが、横浜市と共に消灯の呼びかけを行い、レインボーブリッジやコスモクロックなどのランドマークのほか、市内101カ所の施設・団体が賛同し、アースアワーへ参加した。また、オンライン企画をすすめ、地域の人々によるビデオメッセージをウェブで配信した。



アースアワー 2020 in YOKOHAMA メッセージ動画

<http://yokohama.localgood.jp/earthhour/?fbclid=IwAR1YZvGkFV14BIElCL4yEkfRYORGrzS3e0IL-J5TfcZrYX6FbOm-TaA5wM4>

(別紙5)

2 予想される事業実施効果

項番1 佐賀・熊本地域モデルの推進

農業者・消費者・関連企業の生物多様性への理解が進むことで世界的な課題である持続可能な農業の推進へ貢献し得る。また、プロジェクトサイトでは、生きもの観察会を通じた地域内・外との交流によって地域コミュニティの活性化や、子ども・若者と農業者の世代間交流の活発化が一層進む。さらに、成果を国内外で共有することで、将来の他地域への応用が期待される。

項番2 横浜地域モデルの推進

学校での教育や市民が中心となった環境イベントの開催により、国連の持続可能な開発目標(SDGs)の「12. つくる責任つかう責任」、「13. 気候変動への対策」、「14. 海の豊たかさを守る」、「15. 陸の豊を守る」の達成を視野に、世界的規模の環境問題を理解した上で、適切で賢い選択ができる生活者が増えることが期待できる。これは、横浜市に限ったことでなく、すべての都市生活者に当てはめることができるため、横浜市内での活動を深化させ、今後は他都市へも展開することを想定している。

3 補助事業に係わる成果物

(1) 補助事業により作成したもの

項番1 佐賀・熊本地域モデルの推進

- ① プロジェクト紹介動画 <https://youtu.be/n56HaHv1Zj4>



(別紙5)

② 報告書「水田・水路の生きもの観察レポート2019」



項番2 横浜地域モデルの推進

①アースアワーポスター、チラシ

<https://www.wwf.or.jp/campaign/earthhour-info/2020/pdf/yokohamaJKAEBH2posterFIXpdf.pdf>



ポスター、チラシ表面 (共通デザイン)

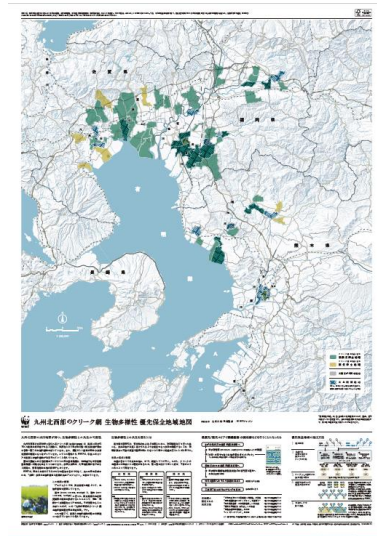


チラシ裏面

(別紙5)



ポイントブック



優先保全地域地図

項番2 横浜地域モデルの推進

①WWFジャパン会報「地球のこと」2020年春号



②アースアワー2020 in YOKOHAMA 特設ウェブサイト

<http://yokohama.localgood.jp/earthhour/?fbclid=IwAR1YZvGkFVI4BlEiCL4yEkfRY0RGrzS3e0IL-J5TfcZrYX6FbOm-TaA5wM4>

(別紙5)



4 事業内容についての問い合わせ先

団体名： 公益財団法人世界自然保護基金ジャパン
(セカイシゼンホゴキキンジャパン)

住所： 〒108-0073
東京都港区三田1丁目4-28 三田国際ビル3階

代表者： 会長 末吉竹二郎 (スエヨシタケジロウ)

担当部署： 企画管理室 (キカクカンリシツ)

担当者名： 佐賀・熊本地域モデルの推進ー並木 崇 (ナミキタカシ)
横浜地域モデルの推進ー清野比咲子 (キヨノヒサコ)

電話番号： 03-3769-1711

F A X： 03-3769-1717

E - m a i l： communi@wwf.or.jp

U R L： <https://www.wwf.or.jp/>